Ｖ戦士

徳島県バレーボール協会中学校専門部　２０１７年 春 ４７号

バレーボール指導を通して思うこと

元中学校専門部長　　久保　俊宏

年年歳歳花相似　歳歳年年人不同
（ねんねんさいさいはなあいにたり　さいさいねんねんひとおなじからず）

子どもは､毎年４月に入部して３年生夏までの長いようで短い２年数か月の部活動生活。部活動に限らず中学校の３年間は、大人の私たちとは比べようもないくらい、一生の中で輝いて心身ともに成長する貴重な時期です。それだけに指導者は強い自覚のもとに指導しなければならないと思います。私は胸を張ってこんなことを言える指導者ではなかったのですが、とにかく一生懸命に取り組みました。

中学校教員生活の殆ど部活動はバレーボール部の指導に携わりましたが、今となっては無茶な練習や、遠回りで間違った厳しい練習をさせたこと、後悔はしていませんが、反省ばかりです。若い時はとにかくがむしゃらに指導をしてきました。

新任の宮浜中学校では「元旦に県内の中学校で練習しているところは他にない。」と言って練習をしたこともありました。逆に４０歳過ぎてからの相生中学校では、部員の半分は少女バレー未経験者でしたが、週一日（月曜日）は休養日にして、部員も私も心身のリフレッシュの時間を取りました。結局最後まで試行錯誤の毎日でしたし、先輩教諭や管理職にはずいぶん心配をかけたことと思います。

私自身、間違えた指導をしてしまったなと思う教え子に何年かぶりで会うと、恥ずかしい思いになりますが、４０歳・５０歳になった教え子からあまり恨みがましいことを聞くことがないのが唯一の救いです。

私が教員生活を全うできたのは、子ども・保護者の皆さんご指導いただいた徳島県バレーボール協会の諸先輩方・大会運営では一緒に苦労を分かち合った同僚・後輩のおかげと感謝しています。

ありがとうございました。

「部活動」を考える

徳島市川内中学校　竹内　敏

私は，バレーボールの指導がしたくて中学校の教員になりました。採用になってから，富田中３年，土成中５年，南部中９年の１７年間，男子バレー部の指導に関われたことは本当に幸せでした。生徒や保護者に恵まれ，子どもと共に「県大会優勝」「全国大会出場」という夢を追いかけた日々は，本当に充実していました。今ふり返ってみると，井上肇先生や多くの先生方に育てていただいたと心から感謝しています。

校長になり，今改めて「部活動」について考えています。本年度，本校の若手教員を対象に「部活動を考える」という校内研修を実施しました。研修のめあては，「部活動の意義について考え，めざす部活動について話し合う。」でした。以下は，研修後に発行された「研修会だより」からの抜粋です。

今回の研修は，「部活動を考える」でした。はじめに，竹内校長先生が部活動を通して考えていたことをお話ししてくださいました。そのなかには，「生徒に求めることは自分にも求める。」という教員としての自分自身の在り方を，改めて考えさせられる言葉もありました。

研修では，「部活動の他の教育課程にはない特徴」を考えました。次の3つがあげられました。①生徒の自主的・自発的な参加であるということ。②異年齢集団（先輩・後輩）であるということ。③競争・勝負の世界であるということ。

そこからさらに，付せんとホワイトボードを使って「部活動でどんな力を育てたいか？」という課題で考えを深めていきました。出された意見には，「主体性」「負ける体験から得られる力」「継続する力」「健康管理をする力」「ルールやマナーを守る力」「コミュニケーション力（社会性）」などがありました。

その後，生徒の「主体性」を育てるための声かけを考え，「なぜできないんだ！」ではなくて，「できないのは何が理由なんだ？」という「なぜ～ない」で生徒を責めるのではなく，「なぜ」を「何」に置き換える問いかけを学びました。

研修の最後には，「指導者として学び続ける姿勢を持ち続けて欲しい。」ということで，多くの書籍を紹介していただきました。さっそく私もそのうちの一冊をお借りして読んでいます。

最近，中学校教員の部活動指導について，いかに勤務負担軽減をするかということが課題になっています。私は部活動には大きな教育的意義があると考えていますが，生徒にも教員にも“本業の時間”と“自分の時間”が必要です。中学校の部活動は，「いかに短時間で効果のあがる練習をするか」が大切です。そのために，「生徒の主体性をいかに育てるか」について，学びたいものです。